

川^{いま}の駅公園前「水辺の交流ゾーン」の現在・・・



萩原川 大淀川

右岸側が整備され散策路が敷設されることで、利用者の利便性が高まります。



川の駅公園の前面に広がる大淀川「水辺の交流ゾーン」。この右岸側は手付かずの環境で、自然のままの状態では竹や草が生い茂り人が立ち入りにくい場所になっていますが、地域の大切なコサダケ採りスポットにもなっている場所です。

また、水際の環境は流れが単調で、生き物が棲める環境が比較的少ない状態です。そのため、生き物が住み易く、人も安全に利用できるような河川空間が求められています。



水辺の交流ゾーン

粘土をコネコネ♪

会議で出てきた意見を基に、具体的な整備イメージを掴んでいただくため、委員の皆さん自らの手で粘土をこねて、「水辺の交流ゾーン(右岸)」を再現してもらいました。「形はこんな感じかな?」「この場所で、環境学習が出来るように」等々、人と自然が共存できる川づくりを目指し、将来の整備イメージを互いに共有することで、概ねの形状を作成し、合意が得られました♪



想いをカタチに!



▲かわまち会議委員の最若手!南九州大学生のお二人に粘土模型の作成を担当してもらいました。

皆さんで作った模型は、水際の傾斜をゆるやかにして人が近づきやすくすると共に、生き物の棲家となるような、多くの石を置くことで水辺に多様な流れをつくり、人と生き物が共存できる環境が表現されています。



◀会議で出た意見を基に作成された「水辺の交流ゾーン」(右岸側)のイメージです。

11月29日、すっかり冬の到来を感じる季節になってきました。第10回みやこんじよかわまち会議の会場、川の駅公園では、都城の人と自然、歴史文化が交流する「かわ」と「まち」づくりに向け、「水辺の交流ゾーン」の整備計画について熱い議論が展開されました!

会議では、「出水時に魚の隠れ場となるような石を水際に置いてほしい!」「若がつくことで魚の餌にもなるので、出来るだけ石を置いてほしい。」「面積はどのくらい削るのか?」等々の意見が交わされていました。

十月、「水辺の交流ゾーン」において、試行プロジェクトウオーキングや水生生物の観察を行ったこともあり、会議では整備に関する具体的な意見が数多く交わされました!整備後、大淀川の豊かな自然環境に多くの人が集う日が望まれます。

!! さあ「水辺の交流ゾーン」の話をしよう!



この「かわまちづくり」の取り組みや、地域を活性化する活動等にご興味のある方は、お気軽に下記問い合わせ先までご連絡下さい。

今後の予定

今後の予定としては、来年1月下旬に第11回みやこんじよかわまち会議を行う予定です。次回会議では、「水辺の交流ゾーン」における利活用について協議を行います。歌舞伎橋の進捗に合わせて左岸側の話も計画していきます。

